

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的事項を身につけさせる指導の継続
- 児童が意欲的に取り組める課題を設定し、見通しをもって学習できる授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員** 委員校長：西岡田章、教頭：前田和博、教務主任：土井和也
 1年主任：三宅 慈、2年主任：井原梨穂、3年主任：藤森麻衣子
 4年主任：福家嘉世、5年主任：野々村歌織、6年主任：村岡さお美
 特別支援教育コーディネーター：小田由里香、住友章芳

校長

西岡田 章

【各校の取組状況の把握について】

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な漢字の読み書き、計算が定着している児童が多い。 ●知識・技能の習得レベルに偏りがあり、学力が二極化している。	・学年相応の読む力が身についている。(漢字等の表記・内容の読み取り) ・タブレットを効果的に使いながら学年をさかのぼって学習するなど自分の力を伸ばすのに必要な学習に取り組んでいる。	・児童が進んで反復学習ができるような仕組み作りをする。(小テストを児童が自分で作るなどの工夫、学び合い出来る場、タブレットを有効利用できるような投げかけ等) ・児童の興味の幅が広がるよう、意識した言葉かけをする。	継続	・学年相応の読む力は十分ついていない児童もいる。 ・タブレット活用で、学年を遡って学習したり自分に必要な学習をしたりする児童もいた。 ・学力の二極化は変わらず、二極化の解消よりも底上げが必要だと考えられる。	・基礎基本を確実に身につけるためには反復と確認が必須である。読み書きに限らない「読み取る力」を付けるべく、声に出して読む、声に出しながらの視写を取り入れるとともに、子ども新聞等を活用し興味や視野を広げる働きかけを行っていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○主語と述語のねじれが見られたり、発表する時に単語で答えたりして、表現力に課題があるものの、小集団の中で、自分の意見を表現することができる。 ●自分の考えをもてなかつたり、表現することができなかつたりする児童がいる。	・根拠や理由を明らかにし、相手意識をもって話したり、書いたりすることができる。 ・相手の意図を考えたり、自分の意見と比べたりしながら、相手の話を最後まで聴くことができる。	・「あったかいおへそで聴こう」を意識づけし、聴く姿勢を徹底する。 ・グループ活動や他学年との交流等、表現する活動を積み重ねたり、ホワイトボードや付箋を効果的に活用した話し合い活動を取り入れたりする。 ・音読・読書・新聞記事の活用で、児童の語彙力を増やす。	継続	・「あったかいおへそで聴こう」の実践で、相手の意見を聴く習慣がついた。 ・付箋やホワイトボードの活用、グループ学習やペア学習を取り入れることで、相手の意図を考えたり、自分の意見と比べたりする児童が増え、児童の主体的な学びにつながっていた。 ・発表でも文章表現でも、自分の意見とその理由も表現できるようになってきている。	・引き続き、「あったかいおへそで聴こう」で聴く姿勢を徹底していく。 ・発表しやすい雰囲気作りはできているので、今後はペア学習・グループ学習を様々な教科で多く取り入れ、児童が表現する機会を確保する。 ・音読・読書・新聞記事に加えて、短文視写を取り入れ、児童の語彙力を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題やパターン化された課題に対しては、真面目に取り組むことができる。 ●自分の課題を認識したり、課題解決のために模索したりするなど粘り強く最後までやり抜こうとする意識が低い児童がいる。 ●家庭学習の質に差がある。	・自分の課題を見つけ、試行錯誤しながら、その課題を解決しようとする事ができる。 ・家庭学習のルーティーンを確立し、自ら学ぶ習慣を身につける。	・児童の取組等を紹介し合ったり、称賛し合ったりする機会を定期的に設定する。 ・家庭学習が充実するように、家庭学習の手引きと家庭学習の友を活用する。	継続	・自主学習ノートを紹介し合ったり、称賛したりする機会を設定することによって、学習意欲につながった。 ・家庭学習充実習慣を設定することによって、学習の取り組み方を確認したり、読書に親しむ機会をつくらしたりすることができた。	・自主学習の出し方や方法、チェックの仕方について共通理解して取り組み、学習への意欲を高める。 ・家庭学習のルーティーンを確立し、自ら学ぶ習慣を身につける。

令和6年度 学力向上ロードマップ

